

# 組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：教育開発センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	自己評価
①-1 目標 該当なし(センター業務に記載)	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	自己評価
②-1 目標 ・教育に関する各種アンケート等を本年度も継続して実施し、現状の把握に努めるとともに、アンケート結果を分析し、本学が直面する教育の課題や改善すべき事項を明らかにする。	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 アンケート実施状況	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	自己評価
③-1 目標 該当なし(センター業務に記載)	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	

・学生アンケート(入学生及び卒業予定者)調査の経年分析結果を報告書に取りまとめ、副専攻制、科目等履修制、学部大学院共通教育、補習教育等の実施状況を調査した。また、学生アンケート調査の結果を分析して、問題点の検討を行って改善策を提言した。客観的指標としては学生アンケート(入学生・卒業予定者)調査報告書等がある。

・大学院学生アンケート及び各研究科の教務調査に基づき、学部大学院連携科目の必要度と、平成24年度に開講されている科目名、科目数を集計・分析し、本制度の実施状況に対する各部局の意見、学内周知、今後の課題等について検証を行った。客観的指標としては平成24年度教育システム委員会議事要旨および大学院学生アンケート報告書がある。

・大学院学生アンケート及び各研究科教務の調査に基づき、平成24年度の研究科横断型連携科目、eGRAD等の学生指導システム、授業評価アンケート(自由記述)、複(数)指導教員制の実施状況等を検討し、総合的に大学院教育システムの課題を集約した。これら分析結果に基づき、関係諸委員会(FD委員会、全学大学院教育改革推進委員会等)に向けて検証と改善の提言案を取りまとめた。客観的指標としては平成24年度教育システム委員会議事要旨および大学院学生アンケート報告書がある。

・各学部の教務委員を通して「学習の動機付け」「時間外学習」に関するアンケート調査を実施し、現在の各学部や教員の取り組みについての情報を収集するとともに、全学FDとして検討すべき今後の課題について整理した。また、取り組みについてはティーチングチップスに反映した。客観的指標としては桃太郎フォーラムXV報告書がある。

・各研究科の教務委員長等を対象としたアンケートを実施し、コースワークが実質的に行われている部局は限られていること、および、各研究科のコースワークでの英語による授業の開設状況が明らかになった。これらの解析結果をまとめ、9月の桃太郎フォーラム分科会にて報告し、検討した。さらに、9月のFD委員会においても解析結果を報告し、今後、大学院教育構築WGにおいて、大学院教育でのコースワークを具体的に検討することとした。客観的指標としては桃太郎フォーラムXV報告書、平成24年度第5回FD委員会議事要旨、および大学院教育でのコースワークについてのアンケート集計結果がある。

④センター業務	自己評価
<p><b>④-1 目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学士課程教育構築システム(Q-cumシステム)の平成25年度新入生に対する本格導入に向けて準備を行うとともに、大学あるいは学部としての学士力保証の基準について検討する。</li> <li>・各研究科における人材養成目的に合致したアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学士課程教育における三つのポリシーとの整合性を考慮のうえ、策定する。また、グローバル人材育成等の新たな教育ニーズに対応したカリキュラムの導入について検討する。</li> <li>・TAの任務の明確化を図るとともに、教養教育TA研修会の実施を定例化する。また、専門教育のTAに対する研修会を全学的に実施する場合の課題と問題点を探る。</li> <li>・e-ラーニングの全学的な普及、利用促進を引き続き図るとともに、学生へのきめ細かい指導を迅速に実践できる学生指導システムに対するニーズとその導入について検討する。</li> <li>・岡山大学版教科書の出版支援事業を引き続き実施するとともに、本支援事業の利用を促進するため、昨年度実施したアンケート調査に基づいて適切な対策を講じる。</li> <li>・Q-cumシステムを活用して、教養教育DP要素の観点から教養カリキュラムの全容を把握・分析し、カリキュラムの問題点の洗い出しを行う。</li> <li>・「大学コンソーシアム岡山」、「科学Tryアングル岡山」、「岡山オルガノン」の事業活動をおとして、引き続き大学間連携を推進する。</li> <li>・岡山大学全学公開講座を、前年度に改定した実施要綱に基づいて、ビッグ研究プロジェクトの内容や成果を一般市民向けに解説する講座に衣替えし、実施する。</li> </ul>	<p>・学士課程教育構築システム(Q-cumシステム)の平成25年度新入生に対する本格導入の準備を完了した。さらに、大学あるいは学部としての学士力保証の基準としての学士力保証点設定について検討を開始した。客観的指標としては平成24年度学士課程教育構築専門委員会資料、岡山大学学士課程教育構築システム(Q-cum system)システム利用の手引、平成24年度FD委員会資料が挙げられる。</p> <p>・学習到達度の評価を厳格化するための方策として、平成25年度から、学士課程教育構築システム(Q-cumシステム)における学習到達度評価の成績評価別係数にGPIに則した評点に基づく係数を採用することを決定し、DPポイントに成績評価に基づく重み付けを行うこととした。さらに、教育効果を適切に評価するための方法として、教員がビデオ撮影された自身の授業を見ることで客観的な授業の評価と改善を行うセルフ・レビュー方式による授業評価・改善を提案した。客観的指標としては平成24年度教育評価専門委員会議事要旨、学士課程教育構築専門委員会議事要旨、教育開発センター教員会議事要旨が挙げられる。</p> <p>・教員の教育改善に対する高いインセンティブを引き出せる教育評価システムの一環として、教員そのものを評価するのではなく、授業を評価対象とするベスト・レクチャー認定制度を教養教育に導入することを提案した。客観的指標としては平成24年度教育評価専門委員会議事要旨が挙げられる。</p> <p>・各研究科における人材養成目的に合致したアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学士課程教育における三つのポリシーとの整合性を考慮のうえ、策定した。客観的指標としては岡山大学の大学院教育における3つの方針(ポリシー)が挙げられる。</p> <p>・今後の大学院教育の改善方策として、全学大学院教育改革推進委員会において、グローバル化社会の大学院教育(答申)に示された課題の意見交換を行った。さらに、グローバル人材育成院設置準備委員会において、平成25年度に設置予定のグローバル人材育成院及びグローバル人材育成特別コースと連携した大学院カリキュラムの改革について、検討を開始した。客観的指標としては平成24年度第1回および第2回全学大学院教育改革推進委員会議事要旨が挙げられる。</p> <p>・グローバル人材育成等の新たな教育ニーズに対応したカリキュラムとして英語の授業時間数倍増を平成25年度から実施することを決定した。客観的指標としては平成24年度教育開発センター運営委員会議事録が挙げられる。</p> <p>・TAの任務の明確化を図るとともに、4月及び9月に教養教育科目に配当されるTAを対象とした「教養教育TA研修会」を開催した。また、8月に、前期教養教育科目でTAを使用した教員及びTAを対象として、実際に行った任務やそのための指導の状況などについての調査を行った。また、調査結果を基に任務を遂行する際に参考となる資料を作成し、後期の教養教育TA研修会で配付した。客観的指標としては第1回および第2回岡山大学教養教育TA研修会資料、教養教育科目TAの実態に関する調査結果報告およびTA業務のための参考資料が挙げられる。</p> <p>・「桃太郎フォーラムXV」第2分科会において、岡山大学のe-Learningの現状と課題について報告を行い、参加者間で議論を行った。また、各部署からの参加者を対象にe-Learningの利用における課題についての実態調査を行い、その結果をまとめて「桃太郎フォーラムXV報告書」にまとめた。さらに、学習管理システムWebClassの利用講習会を、10月に英語の自学自習システムALC NetAcademy2の利用講習会をそれぞれ開催し、両システムの利用促進を図った。客観的指標としては桃太郎フォーラムXV報告書、第1回WebClass利用講習会参加者リスト、ALC NetAcademy 2利用講習会参加者リスト、平成24年度学生指導システムに関する調査(集計結果)が挙げられる。</p> <p>・岡山大学版教科書の出版支援事業として、学部専門教育科目及び大学院の授業科目を対象に2回の公募(4月、9月)を行い、計6件を採択した。その内、1件は大学院授業科目目である。また、授業内容の標準化のため、教養教育科目を対象にスタンダード教科書を作成すべき教科の検討を開始した。さらに、昨年度実施した「先行執筆された岡山大学版教科書の利用状況」に関する調査結果並びに今後実施される予定の授業内容等の標準化のために各学部・部局・部会が取り組んでいる方策あるいは課題等についての調査結果、岡山大学版教科書を使用した学生の理解度、使いやすさなどに関する調査結果を踏まえ、教科書編纂の問題点・課題の解決に向けて検討中である。客観的指標としては平成24年度岡山大学版教科書作成状況一覧、平成24年度教科書専門委員会議事要旨、岡山大学版教科書を使用した学生の理解度等に関する調査結果報告書が挙げられる。</p> <p>・各学部学科等の単位における、教養教育に関するサブカリキュラムマップを策定すると共に、平成25年度版「教養教育科目履修の手引」に教養教育科目開設方針を掲載し、各科目区分ごとに、関連性の高い教養教育DP要素の上位3位までを記載することを決定した。また、各学部学科単位で行われる教養カリキュラムの内容分析及び問題点の抽出結果を受け、リメディアル教育、初年次教育を含めた教養教育が担うべき学士力(教養DP要素)の育成を最適化したカリキュラム構築のための体制整備に向けて、検討を開始した。客観的指標としては平成24年度学士課程教育構築専門委員会議事要旨、平成24年度教育先端教員会議事要旨、平成25年度版教養教育科目履修の手引が挙げられる。</p> <p>・「大学コンソーシアム岡山」、「科学Tryアングル岡山」、「岡山オルガノン」の事業活動をおとして、引き続き大学間連携を推進した。特に「岡山オルガノン」は、今年度から、これまでの連携を踏まえて、運営組織を大学コンソーシアム岡山へ発展的に吸収したが、事業としては、昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用したライブ科目、インターネットを利用したVOD科目による単位互換事業を実施した。客観的指標としては「大学コンソーシアム岡山」単位互換履修生受入・派遣状況等が挙げられる。客観的指標としては「大学コンソーシアム岡山」単位互換履修生受入・派遣状況等が挙げられる。</p> <p>・岡山大学全学公開講座を、前年度に改定した実施要綱に基づいて、ビッグ研究プロジェクトの内容や成果を一般市民向けに解説する講座に衣替えし、十分な改変の成果が得られた。客観的指標としては平成24年度第5回～第7回社会連携委員会議事要旨が挙げられる。</p> <p>・「桃太郎フォーラムXV」第2分科会(参加者30名)において、「学習の動機付けの工夫」及び「授業時間外学習促進と実効性」についての各方面の取り組みを取り上げ、参加者間での議論と共有化を図った。また、各部署からの参加者を対象に取り組みの実態調査を行い、その結果をまとめて桃太郎フォーラムXVIにて公開した。客観的指標としては桃太郎フォーラムXV報告書が挙げられる。</p> <p>・教育改善の取組の一環として、教養教育改革案の検討を行った。客観的指標としては平成24年度教育先端教員会議資料が挙げられる。</p>
<p><b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・研究科における三つのポリシー策定状況とそのポリシーに合致した教育の質保証の検討状況</li> <li>・教養教育TA研修会の実施状況と参加率</li> <li>・e-ラーニング利用状況</li> <li>・岡山大学版教科書出版件数</li> <li>・教養教育カリキュラム実施状況</li> <li>・大学間連携授業科目の履修者数、単位取得状況</li> <li>・全学公開講座実施状況と参加者数</li> </ul>	<p>・「大学コンソーシアム岡山」、「科学Tryアングル岡山」、「岡山オルガノン」の事業活動をおとして、引き続き大学間連携を推進した。特に「岡山オルガノン」は、今年度から、これまでの連携を踏まえて、運営組織を大学コンソーシアム岡山へ発展的に吸収したが、事業としては、昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用したライブ科目、インターネットを利用したVOD科目による単位互換事業を実施した。客観的指標としては「大学コンソーシアム岡山」単位互換履修生受入・派遣状況等が挙げられる。客観的指標としては「大学コンソーシアム岡山」単位互換履修生受入・派遣状況等が挙げられる。</p> <p>・岡山大学全学公開講座を、前年度に改定した実施要綱に基づいて、ビッグ研究プロジェクトの内容や成果を一般市民向けに解説する講座に衣替えし、十分な改変の成果が得られた。客観的指標としては平成24年度第5回～第7回社会連携委員会議事要旨が挙げられる。</p> <p>・「桃太郎フォーラムXV」第2分科会(参加者30名)において、「学習の動機付けの工夫」及び「授業時間外学習促進と実効性」についての各方面の取り組みを取り上げ、参加者間での議論と共有化を図った。また、各部署からの参加者を対象に取り組みの実態調査を行い、その結果をまとめて桃太郎フォーラムXVIにて公開した。客観的指標としては桃太郎フォーラムXV報告書が挙げられる。</p> <p>・教育改善の取組の一環として、教養教育改革案の検討を行った。客観的指標としては平成24年度教育先端教員会議資料が挙げられる。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p>	
<p>平成24年度の組織目標として掲げられていた課題に関してはほぼ達成できた。来年度に向けた課題としては、e-ラーニングの全学的な普及、利用促進ならびに大学院教育の改善促進であると考えている。</p>	